

無事に大きく育てて

ホタテオーナー制度 耳づくり体験

5月27日、特産のホタテをPRするホタテオーナー制度の耳づくり体験が豊浦漁港で行われました。

今年は、札幌市などから22人が参加し、オーナー自らロープにホタテを取り付け、沖にある養殖施設にロープを吊り下げる作業に立ち会いました。

参加されたオーナーは、「自分の手でホタテ養殖の作業を手伝い、年末にそのホタテが届くことを楽しみにしています。」と話していました。



▲丁寧にホタテを海中に入れるオーナー

自然環境を大切に

大岸小学校児童植樹

5月9日、大岸小学校児童による植樹が行われました。

指導林家の清水信男さん(大岸)が、植樹で原生林の復元や保全をしようと大岸小学校に提案をし、10年前から清水さん所有の山林で毎年行われています。

児童は、30cmほど育った約150本のトドマツの苗木を自分たちの手で植えることにより、自然を



▲石をよけ、丁寧に苗木を植える児童

サケ網オーナー制度はじめました

サケ網オーナー制度 稚魚放流体験



▲施設内には約400万匹の稚魚が。思わずばしゃり

今年度から、新たに開始された「サケ網オーナー制度」の稚魚放流体験が5月26日にインディアン水車公園で行われました。

今回放流したサケの稚魚の数は40万匹。オーナーは、サケの生態などについて、漁協職員や地域おこし協力隊から説明を受け、理解を深めていました。

参加されたオーナーは、小さい体で元気よく力いっぱい泳ぐサケの稚魚を見て、「数年後大きくなって無事に帰ってきてほしい」と願っていました。



▲10年の節目を記念にみんなでハイチーズ

大切にする意識を育みました。

工藤莉々香さん(6年)は「急斜面で植えるのは大変だったけど、年々慣れてきて植樹が楽しくなりました。自分が植えた木が大きくなると嬉しい。」と今後の成長が楽しみなようでした。

10年の節目を境に活動は終了しますが、今後も自然環境の大切さを学ぶ学習は続きます。